

## 第1章 茨木市の概況

### 1-1 沿革および地勢

#### 1-1-1 沿革

地名「いばらき」の発祥は、明らかでないが、時代はかなり古く、茨木の地名が出ている現存する最も古い記録は、勝尾寺文書中の正治2（1200）年の記録である。

日本でも有数の古墳群地帯で、この地方の古墳群の特徴は、古墳時代の初期から末期までの各時代の古墳の形式がそろっていることと、様々な形態の古墳が並存していることである。

平安時代に入ってから、市の中央部を東西に走る西国街道の往来が盛んとなり、京都と西国の国々とを結ぶ大切な交通路となった。室町・江戸時代とその役割は大きくなり、参勤交代などによる利用がますます激しくなった。「樁の本陣」は、全国でも珍しい日本交通史上の遺跡である。

織豊時代には、中川清秀（1532～1583）がここに茨木城を築き、本市繁栄の基礎をつくった。天正10（1582）年6月、本能寺の変における秀吉の書状が梅林寺に納められているが、これは全国でも珍しい秀吉自筆の書状である。中川氏が基礎を築いた茨木の城下町は、片桐且元（1556～1615）によりその形が整えられた。

徳川幕府の大政奉還後、府県藩三治の制がとられていた明治2年には兵庫県の管下であったが、明治4年7月、廃藩置県とともに大阪府の管轄に属することとなり、また、明治31年の群制実施により三島郡に置かれると、茨木村も町制を施行し、その中心地となった。昭和23年1月1日に茨木町・三島村・春日村・玉櫛村の1町3村が合併して市制を施行、以後8か村を合併編入、平成9年には人口も26万人を超え、現在府内9番目の人口と産業・住宅都市としての要素をあわせ有する近代都市として発展を遂げている。

特に、名神高速道路・府道大阪中央環状線をはじめ、近畿自動車道など、国内各地につながる幹線が本市に集中し、北大阪の交通・産業の要衝として重要な位置にあり、鉄軌道では、大量輸送機関のJR東海道線は新大阪駅で新幹線と連なり、阪急京都線も3駅を設け、京都・大阪の都市圏への輸送を担ってい

る。また、大阪国際空港を起点に府内衛星都市（郊外住宅都市）を環状に結ぶ新交通機関である大阪モノレールも、沢良宜駅・宇野辺駅間を中心として地域の発展に大きく寄与しており、さらに万博記念公園駅から阪大病院前駅までの区間が延伸されている。

### 1 - 1 - 2 地勢

本市は、淀川の北、大阪府の北部にあり、丹波高原の一部をなす老の坂山地の麓に位置し、東西 10.07km、南北 17.05km、面積 76.52 km<sup>2</sup>を有する広範な地域を占めている。

北は京都府亀岡市、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能群豊能町にそれぞれ隣接している。その地形は南北に長く、東西に短い長方形をなし、およそ北半分は老の坂山地であって、南半分は大阪平野の一部をなす三島平野であり、山地のほぼ中央には、竜王山（510m）が聳え、最も高い標高は豊能町との境にある石堂ヶ丘（680.5m）である。市内の最低は 2.5mで、中央公園では 12.4mである。

河川は北部に源を発し、安威川、佐保川、茨木川及び勝尾寺川の 4 河川は、南に流れている。

市の中央部を流れているのが佐保川と茨木川であり、佐保川は、泉原の北部に源を発し、清溪の溪谷を流れて福井に出ており、勝尾寺川との合流地点から茨木川となり、西河原において安威川と合流している。一方、勝尾寺川は、箕面方面から流れて、中河原において佐保川と合流している。

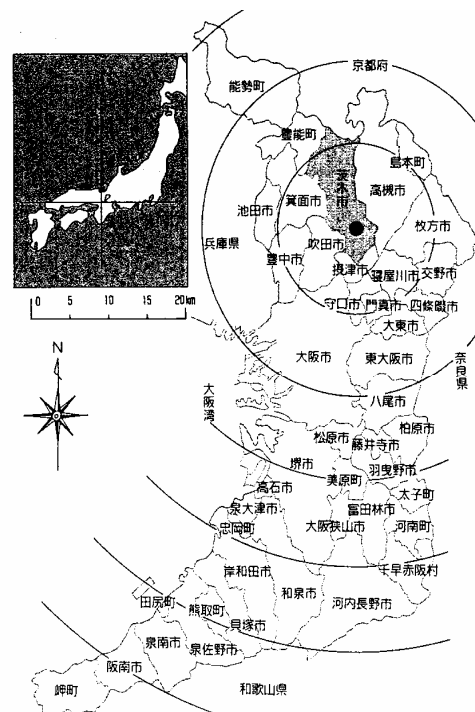


図 1-1-1 本市の位置

## 1 - 2 総人口と高齢者数、身体障害者数の推移

### 1 - 2 - 1 市の総人口、世帯数の推移

平成 14 年 10 月現在、本市における人口は 260,802、世帯数は 103,652 である。昭和 45 年から人口及び世帯数は増加してきたが、人口については昭和 60 年頃から微増傾向にある。また、一世帯当たりの平均人員は、昭和 45 年には 3.58 人であったが、その後減少を続け、平成 13 年には 2.56 人となっている。

人口の動態は、平成 12 年の自然増が 1,366 人、社会増は逆に 624 人のマイナスであり、その結果として人口は微増傾向にある。

地域別では、近年住宅建設が著しい南部地域及び中心地域東部で人口が増加しており、逆に、中心地域の中央部及び北部地域の一部で減少している。

なお、本市の人口・世帯数は今後とも微増傾向を保ち、このうち、人口については、平成 17 年に約 28 万、平成 22 年に約 29 万程度に達するものと想定している。

表 1-2-1 人口・世帯数の推移（国勢調査）

	市域面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数	人口			人口密度 (人 / km <sup>2</sup> )
			総数	男	女	
昭和 25 年	20.55	7,601	34,820	17,115	17,705	1,694
30 年	65.15	10,923	51,014	25,216	25,798	783
35 年	75.16	16,083	71,859	36,357	35,502	956
40 年	75.16	29,475	115,136	59,710	55,426	1,532
45 年	75.16	45,803	163,903	84,437	79,466	2,181
50 年	75.15	62,964	210,286	107,673	102,613	2,798
55 年	75.15	78,721	234,062	118,884	115,178	3,115
60 年	75.15	83,647	250,463	126,414	124,049	3,333
平成 2 年	76.56	88,103	254,078	127,529	126,549	3,319
7 年	76.51	94,907	258,233	129,064	129,169	3,375
12 年	76.52	99,557	260,648	129,122	131,526	3,406

（資料：茨木市「茨木市統計書 平成 13 年度版」平成 14 年 3 月）

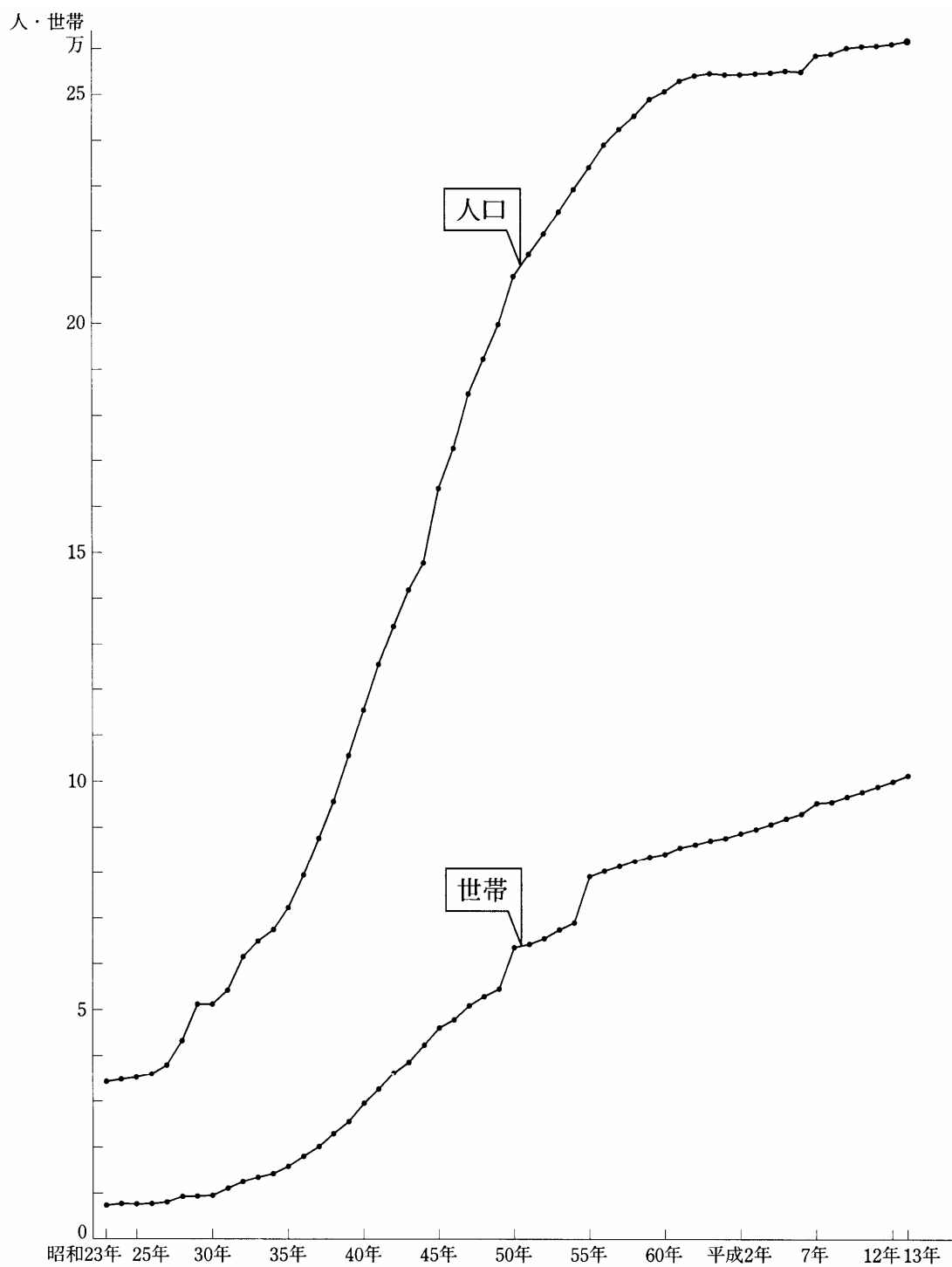


図 1-2-1 人口・世帯数の推移

(資料：茨木市「茨木市統計書 平成13年度版」平成14年3月)

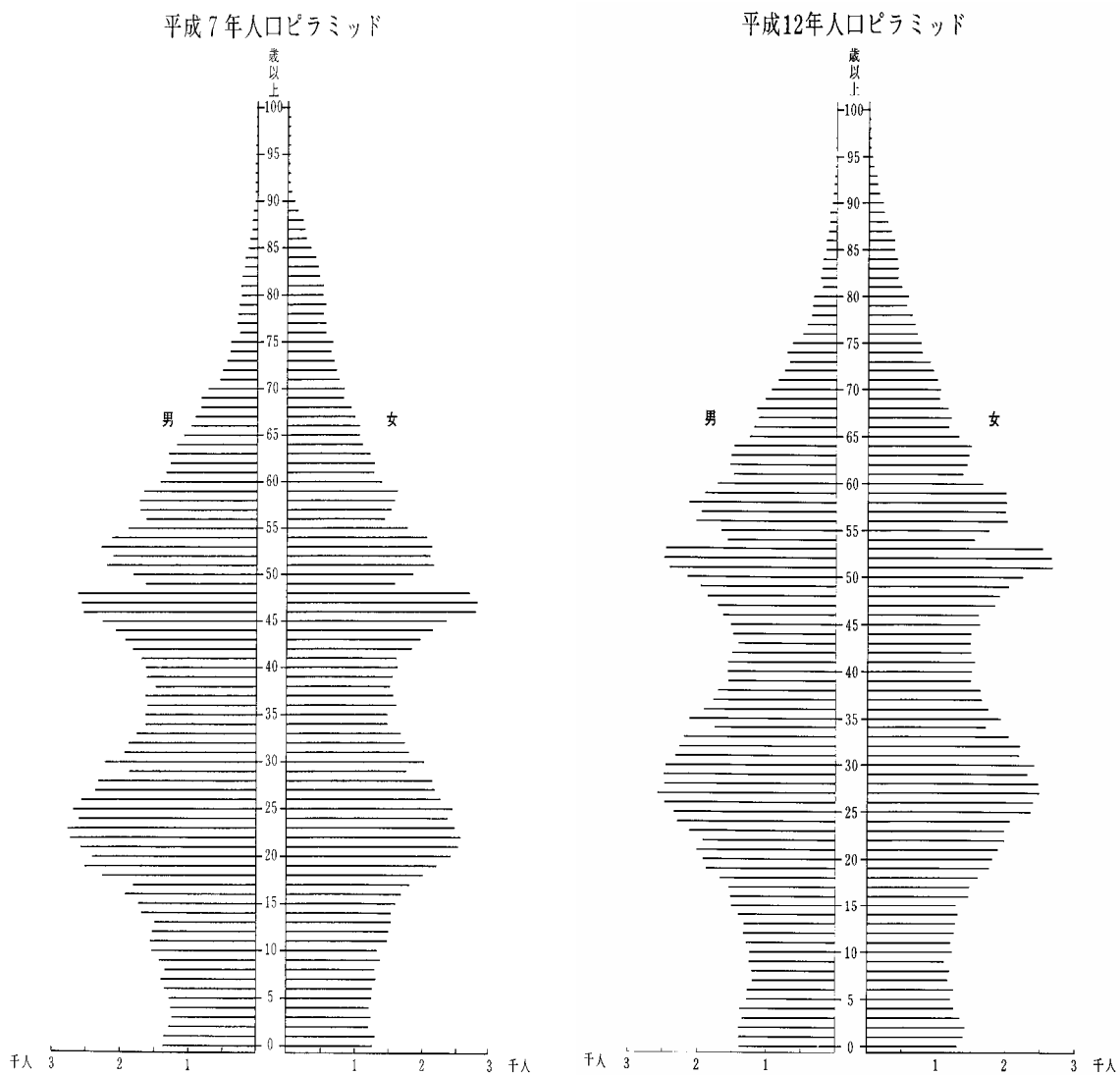


図 1-2-2 人口ピラミッド

(資料：茨木市「茨木市統計書 平成 13 年度版」平成 14 年 3 月)

表 1-2-2 人口動態

	自然動態			社会動態			純人口 増加数
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
平成 8 年	2,822	1,429	1,393	17,012	17,426	414	1,119
9 年	2,858	1,330	1,528	17,195	17,136	59	1,740
10 年	2,850	1,446	1,404	15,719	16,962	1,243	298
11 年	2,854	1,463	1,391	15,687	16,396	709	796
12 年	2,811	1,445	1,366	15,103	15,727	624	882

(注): 純増加数には、自然・社会動態以外の要因によるものも含む。

(資料: 茨木市「茨木市統計書 平成 13 年度版」平成 14 年 3 月)

### 1 - 2 - 2 高齢者数とその比率の推移

平成 12 年における年齢別人口構成(3 区分)は、年少人口(14 歳以下)比率 14.85%、高齢者人口(65 歳以上)比率 12.43%であり、この約 30 年間をみると、年少人口比率は減少し、高齢者人口比率は増大しており、今後ともこの傾向は続くものと予測され、平成 17 年には、高齢者人口比率が約 15%に達するものと想定している。

表 1-2-3 平均年齢

(各年 10 月 1 日現在・単位: 年・か月)

年次	平均	男	女
昭和 55 年	29 . 11	29 . 2	30 . 8
60 年	32 . 5	31 . 7	33 . 4
平成 2 年	34 . 11	33 . 11	35 . 11
7 年	37 . 2	36 . 2	38 . 2
12 年	39 . 1	38 . 1	40 . 1

(資料: 茨木市「茨木市統計書 平成 13 年度版」平成 14 年 3 月)

表 1-2-4 年齢構造

年次	人口			割合（％）			老年化 指数	従属人口 指数
	14 歳以下	15～64 歳	65 歳以上	14 歳以下	15～64 歳	65 歳以上		
昭和 55 年	61,452	159,497	12,888	26.28	68.21	5.51	20.97	46.61
60 年	59,414	174,522	16,272	23.75	69.75	6.50	27.39	43.37
平成 2 年	48,050	184,731	20,197	18.99	73.02	7.98	42.03	36.94
7 年	40,539	191,163	25,534	15.76	74.31	9.93	62.99	34.56
12 年	38,686	189,511	32,397	14.85	72.72	12.43	83.74	37.51

(注): 1) 昭和 55 年人口で 225 名、年齢不詳のため除く。

2) 昭和 60 年人口で 255 名、年齢不詳のため除く。

3) 平成 2 年人口で 1,100 名、年齢不詳のため除く。

4) 平成 7 年人口で 997 名、年齢不詳のため除く。

5) 平成 12 年人口で 54 名、年齢不詳のため除く。

6) 老年化指数 = 65 歳以上人口 / 14 歳以下人口 × 100

7) 従属人口指数 (14 歳以下人口 + 65 歳以上人口) / 15～64 歳人口 × 100

(資料: 茨木市「茨木市統計書 平成 13 年度版」平成 14 年 3 月)

表 1-2-5 高齢者人口の内訳

年次	総人口	高齢者 人口総数	前期高齢者		後期高齢者	
			人口	構成比(%)	人口	構成比(%)
平成 2 年	252,978	20,197	11,751	4.65	8,446	3.34
7 年	257,236	25,534	15,607	6.07	9,927	3.86
12 年	260,594	32,397	20,205	7.75	12,192	4.68

(注): 1) 高齢者人口は 65 歳以上、うち、前期高齢者人口は 65～74 歳、後期高齢者人口は 75 歳以上の人口をそれぞれ示す。

2) 構成比(%)は、総人口に対する割合を示す。

(資料: 茨木市「茨木市統計書 平成 13 年度版」平成 14 年 3 月)

### 1 - 2 - 3 障害者数とその比率の推移

障害者手帳の交付状況は以下のとおりであり、近年、微増傾向にある。

なお、総人口に占める割合は、平成 13 年で 3.1%となっている。

表 1-2-6 障害者手帳交付状況(所持者数)

年次	総数	視覚障害	聴覚・平衡	音声・言語	肢体 不自由	内部障害	知的障害
			機能障害	機能障害			
平成 9 年	6,749	599	605	84	3,281	1,242	938
10 年	7,201	619	619	89	3,530	1,356	988
11 年	7,659	639	649	95	3,787	1,454	1,035
12 年	7,547	575	616	105	3,703	1,442	1,106
13 年	7,955	580	645	107	3,913	1,545	1,165

(資料: 茨木市「茨木市統計書 平成 13 年度版」平成 14 年 3 月)



### 1 - 3 交通機関の特性

#### 1 - 3 - 1 鉄軌道

交通の現況は、鉄軌道については、市の中央部を北東から南西に向かってＪＲ東海道線、阪急京都線が並走し、また、市の南部に大阪モノレールが開通し、ＪＲ東海道線には茨木駅が、阪急京都線総持寺駅、茨木市駅、南茨木駅が、大阪モノレールには沢良宜駅、南茨木駅、宇野辺駅、阪大病院前駅が設置されている。

表 1-3-1(1) 鉄軌道駅の旅客状況（ＪＲ西日本茨木駅）

（単位：千人）

	乗車	降車
平成 8 年度	17,198	-
9 年度	16,723	-
10 年度	16,400	-
11 年度	16,238	-
12 年度	16,411	-

（資料：西日本旅客鉄道株）

表 1-3-1(2) 鉄軌道駅の旅客状況（大阪モノレール各駅）

（単位：千人）

	宇野辺駅		南茨木駅		沢良宜駅		阪大病院前駅	
	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車
平成 8 年度	726	706	2,416	2,380	-	-	-	-
9 年度	869	822	3,218	3,188	223	211	-	-
10 年度	960	919	3,716	3,722	445	430	246	284
11 年度	971	905	3,767	3,831	462	460	509	581
12 年度	1,029	991	3,863	3,907	501	501	543	603

（注）：1） 宇野辺駅は、平成 9 年 4 月 1 日に茨木駅から改称。

2） 沢良宜駅は、平成 9 年 8 月 22 日開業。

3） 阪大病院前駅は、平成 10 年 10 月 1 日開業。

（資料：大阪高速鉄道株）

表 1-3-1(3) 鉄軌道駅の旅客状況（阪急電鉄各駅）

（単位：千人）

	茨木市駅		総持寺駅		南茨木駅	
	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車
平成 8 年度	14,372	15,975	4,893	5,127	5,870	5,861
9 年度	14,798	15,579	5,221	5,328	7,230	7,546
10 年度	14,111	15,145	5,068	5,174	7,032	7,342
11 年度	14,104	14,866	4,963	5,069	6,909	7,215
12 年度	13,812	14,574	4,819	4,931	6,868	7,242

（資料：阪急電鉄株）

### 1 - 3 - 2 バス

市内中心地と周辺部を結ぶ交通として、ＪＲ茨木駅、阪急茨木市駅から阪急バス、近鉄バス、京阪バスの３社によるバス交通がその主な役割を果たしている。

表 1-3-2(1) バス輸送状況（阪急バス）

	路線数	路線延長（km）	乗車人員	降車人員	バス停数
平成 8 年	8	72.0	6,794,468	6,799,398	108
9 年	6	69.7	6,381,514	6,386,144	107
10 年	6	75.3	5,924,021	5,943,722	108
11 年	6	75.3	5,596,234	5,614,845	108
12 年	6	75.3	5,370,611	5,335,840	108

（注）： 平成 9 年数値は、平成 9 年 12 月 22 日の路線統合によるものである。

（資料：阪急バス株）

表 1-3-2(2) バス輸送状況（近鉄バス）

	路線数	路線延長（km）	乗車人員	降車人員	バス停数
平成 8 年	53	42.2	3,870,821	3,870,208	82
9 年	55	46.1	3,766,309	3,765,712	92
10 年	55	45.2	3,596,825	3,596,255	90
11 年	41	41.8	3,327,063	3,326,536	92
12 年	34	41.5	3,481,439	3,480,887	86

（資料：近鉄バス株）

表 1-3-2(3) バス輸送状況（京阪バス）

	路線数	路線延長（km）	乗車人員	降車人員	バス停数
平成 8 年	1	4.4	1,617,707	1,646,223	13
9 年	1	4.4	1,588,128	1,593,013	13
10 年	1	4.4	1,520,965	1,525,643	13
11 年	1	4.4	1,438,326	1,422,751	13
12 年	1	4.4	1,411,940	1,418,449	13

（資料：京阪バス株）

### 1 - 3 - 3 道路

本市における道路交通については、国道 171 号、名神高速道路、大阪中央環状線などが市街地に通じており、また、工場進出、宅地開発等が併行して進み市街地が急激に広がったため、大阪万国博覧会関連事業として、JR 茨木駅、阪急茨木市駅両駅前広場の整備、両駅前を結ぶ幹線道路、その他関連道路が整備された。

また、本市における都市計画道路の総延長は 105,902m（平成 14 年 8 月現在）で、幹線道路・区画街路のうち基本幅員が整備されている割合は約 50%である。なお、事業中の路線は、国際文化公園都市区域内の特定土地区画整理事業により整備する区間も含めて約 29%となっている。

表 1-3-3 市域道路網一覽

	道路名
国土幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名神高速道路</li> <li>・第二名神自動車道</li> </ul>
広域幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪中央環状線(近畿自動車道)</li> <li>・十三高槻線</li> <li>・千里丘寝屋川線</li> <li>・道祖本摂津北線</li> <li>・富田目垣線</li> <li>・京都神戸線(国道171号)</li> <li>・大阪高槻京都神戸線(一部、国道171号)</li> <li>・茨木寝屋川線</li> <li>・耳原大岩線</li> <li>・茨木箕面丘陵線</li> <li>・大岩線</li> </ul>
地域幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨木駅千里丘陵線</li> <li>・島野々宮線</li> <li>・阪急茨木駅総持寺線</li> <li>・阪急茨木駅総持寺線枝線1号線</li> <li>・総持寺太田線</li> <li>・茨木鮎川線</li> <li>・阪急茨木駅島線</li> <li>・阪急南茨木駅平田線</li> <li>・沢良宜野々宮線</li> <li>・茨木駅前線</li> <li>・茨木松ヶ本線</li> <li>・畑田太中線</li> <li>・倍賀下穂積線</li> <li>・茨木小野原線</li> <li>・十日市富田線</li> <li>・沢良宜野々宮線枝線1号線</li> <li>・上郡佐保線</li> <li>・山麓線</li> <li>・国文都市1号線</li> <li>・国文都市2号線</li> <li>・国文都市3号線</li> <li>・国文都市4号線</li> <li>・西中条奈良線</li> <li>・豊川駅前線</li> <li>・中部駅前線</li> </ul>

(資料：茨木市「茨木市都市計画マスタープラン」平成10年3月)

#### 1 - 3 - 4 自転車

昨今における環境保全意識の向上を受け、交通手段としての自転車利用が見直されつつあるが、本市においては、市内中心部で起伏が少ないという地形特性により自転車利用が多く、違法駐輪対策が大きな課題となっている。

市域の主要な鉄軌道駅前における放置自転車数は、平成12年をピークに多少減少しているが、今後とも引き続き、民間との連携も含めた駐輪場の整備充実や自転車利用者への啓蒙活動などに対する努力が必要である。

表 1-3-4 放置自転車数の推移

	平成7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
JR茨木駅	113	179	227	-	153	421	282	221
阪急茨木市駅	456	629	566	-	819	669	596	630
阪急総持寺駅	78	67	70	-	61	216	167	233
阪急南茨木駅	130	145	199	-	70	177	167	233
モルル宇野辺駅	32	28	13	-	98	72	55	55
モルル沢良宜駅	-	-	-	-	-	20	19	18
合計	809	1,048	1,075	-	1,201	1,575	1,290	1,390

(注): 各年とも、各種学校が休校ではない1日の13:00~14:00の間に補足した数値。

(資料: 茨木市)

表 1-3-5 自転車類撤去台数(年間総数)の推移

	自転車	原付自転車	計
平成7年度	26,704	2,909	29,613
8年度	23,784	2,028	25,812
9年度	21,655	2,464	24,119
10年度	21,529	2,220	23,749
11年度	22,080	2,338	24,418
12年度	23,224	2,455	25,699
13年度	22,042	2,489	24,531

(資料: 茨木市)